Biz Box ルータ「N58i」

取扱説明書

Biz Box ルータ「N58i」をお買い上げいただきありがとうございます。
お使いになる前に本書をよくお読みになり、正しく設置や設定を
行ってください。
本書中の警告や注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。
本書はなくさないように、大切に保管してください。

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために

以下の点を必ず守ってお使いください。

安全のための注意事項を守る

詳しくは、4〜5ページをご覧ください。

故障したら使用を中止する。

お買い上げの販売店または当社のサービス取扱所にご連絡ください。

マークの意味

本書および本製品では、本製品を安全にお使いいただくため、守っていただきたい事項に次のマークを表示していますので、必ずお読みください。

⚠ 警告

人体に危険を及ぼしたり、装置に大きな損害を与える可能性があることを示しています。必ず守ってください。

⚠ 注意

機能停止を招いたり、各種データを消してしまう可能性があることを示しています。十分注意してください。

はじめにお読みください

お買い上げいただき、ありがとうございます。
本製品はブロードバンドルータやダイヤルアップルータ、TELポート、DSUの機能を内蔵したルータです。

付属品をご確認ください

- ACアダプタ(P12V0.95A)
- スタンド(1個)
- 取扱説明書(1冊)
- CD-ROM (1枚)
- 保証書(1枚)

本書の主な内容

他の説明書もご覧ください

本書は基本的な接続に必要な情報のみを記載しています

本製品を使いこなすために、用途に合わせて以下の説明書／ヘルプをご覧ください。

- **活用マニュアル(CD-ROM)**:インターネットへの他の接続方法やフィルタの設定、運用管理など、本製品を使いこなすための情報が記載されています。
- **コマンドリファレンス(CD-ROM)**:コンソールコマンドを用いた、より詳細な設定方法が記載されています。
- **「かんたん設定ページ」のヘルプ**:各設定画面の設定項目について、詳しい説明が記載されています。「かんたん設定ページ」の「ヘルプ」をクリックしてください。

ヒント

付属のCD-ROMに収録されている活用マニュアルおよびコマンドリファレンスは、PDFファイル形式での提供となります。PDFファイルをご覧いただくには、Adobe社のAdobe Reader®が必要になります。最新のAdobe Readerは Adobe社のWebサイトより無料でダウンロード可能です。Adobe Readerの操作について詳しくは、Adobe Readerのヘルプをご覧ください。

⚠警告

本製品を安全にお使いいただくために、下記のご注意をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。

- 本製品の仕様は日本国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
- 本製品は一般オフィス向けの製品であり、人の生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される分野に適応するようには設計されていません。
  本製品を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品から発煙や異臭がするとき、内部に水分や薬品類が入ったとき、およびACアダプタや電源コードが発熱しているときは、直ちにACアダプタをコンセントから抜いてください。そのまま使用を続けると、火災や感電のおそれがあります。
- 濡れた手でACアダプタや電源コードを触らないでください。感電や故障のおそれがあります。
- 電源コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- ACアダプタは必ず本製品に付属のもの(P12V0.95A)をお使いください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 付属のACアダプタは日本国内用AC100V（50/60Hz)の電源専用です。他の電源で使用すると、火災や感電、故障の原因となります。
- 安全のため、ACアダプタは容易に外すことのできるコンセントに接続してください。家具の後ろなど手の届かない場所にあるコンセントには接続しないでください。
- 本製品を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因となります。
- 本製品を分解したり、改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- 本製品の通風口を塞いだ状態で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- 電源を入れたままケーブル類を接続しないでください。感電や故障、本製品および接続機器の破損の恐れがあります。
- 本製品のポートに指や異物を入れないでください。感電や故障、ショートの原因となります。
- 本製品を他の機器と重ねて置かないでください。熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- 近くに雷が発生したときは、ACアダプタやケーブル類を取り外し、使用をお控えください。落雷によって火災や故障の原因となることがあります。
- 本製品をご使用にならないときは、ACアダプタを必ずコンセントから外してください。
- LANポートやISDNポート、ISDN U/LINEポート、TELポートなどの通信ポートには、本来接続される信号と異なる信号ケーブルを接続しないでください。火災や故障の原因になります。

⚠注意

本製品を安全にお使いいただくために、下記のご注意をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。

- 直射日光や暖房器等の風が当たる場所、温度や湿度が高い場所には、置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- 極端に低温の場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所で使用しないでください。故障や動作不良の原因となります。結露が発生した場合は、ACアダプタをコンセントから抜き、乾燥させ、充分に室温に慣らしてから使用してください。
- ほこりが多い場所や油煙が飛ぶ場所、腐蝕性ガスがかかる場所、磁界が強い場所に置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。アース接続は必ず、ACアダプタをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ずACアダプタをコンセントから取りはずしてから行ってください。
- 本製品を修理や移動等の理由により輸送する場合には、必ず本製品の設定を保存してください。
- 本製品に触れる際は、人体や衣服から静電気を除去する等、静電気対策を十分に行ってください。静電気によって故障するおそれがあります。
- 同一電源ライン上にノイズを発生する機器を接続しないようにしてください。故障や動作不良の原因になります。

使用上のご注意

- ダイヤルアップルータはプロバイダ接続のために自動的に電話をかける機能を持った装置であり、本製品にも自動的に電話をかける機能があります。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめ製品の機能や動作をよく理解した上でご使用ください。本製品の使用方法や設定を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- メール確認や転送を設定すると定期的にインターネットへ自動接続を行うので、その度に通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめご理解いただいた上で、この機能を設定およびご使用ください。
- 本製品のTELポートに接続するアナログ機器は、技術基準適合認定を受けた製品をご使用ください。
- アナログ回線をご使用の場合、停電時は以下の点にご注意ください。
  - 電話機を使った設定は、本製品と電話機間はトーン(プッシュ)で信号がやり取りされます。そのため、停電などによって本製品の電源供給が停止すると、トーン(プッシュ)回線用に動作するように設定された電話機がダイヤル回線と直結されることになります。この状態では、お使いの電話機によっては110や119などの緊急電話も含めて、外線通話できない場合があります。
    お使いの電話機にダイヤル/トーン切り換えスイッチがある場合は、「ダイヤル」に切り換えて通話してください。
  - TEL2ポートに接続した電話機で外線通話中に停電が発生すると、切断されます。停電時は、TEL1ポートに接続した電話機に外線通話が切り替わります。
- ISDN回線をご使用の場合、本製品に接続した電話機は停電時に通話できません。停電時に110や119などの緊急通話が必要な場合は、別回線の電話機や携帯電話などをお使いください。
- 本製品のTELポートにはモデムあるいはFAXを接続して使用することができます。
- 本製品のTELポートにはモデムを接続して使用することができますが、モデムの最高通信速度で接続できるとは限りません。モデムの通信速度は、その時の通信回線の環境や相手先の機器との相性によって決まりますので、モデムの最高性能よりも遅い速度でしか接続できない場合があります。
- 本製品のDSUを使用している場合、本製品のISDN S/TポートにTAやG4 FAXなどのデジタル通信機器を接続できますが、本製品のISDN S/Tポートは給電に対応していませんので、給電を必要とする機器は正しく動作しません。
- 本製品のUSBポートは、すべてのUSBメモリの動作を保証するものではありません。
- USBメモリの内部データは定期的にバックアップすることをお勧めします。本製品のご利用にあたりデータが消失、破損したことによる被害については、当社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

- 本製品の使用方法や設定を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品のご使用にあたり、周囲の環境によっては電話、ラジオ、テレビなどに雑音が入る場合があります。この場合は本製品の設置場所、向きを変えてみてください。
- 本製品を譲渡する際は、マニュアル類も同時に譲渡してください。
- 本製品を廃棄する場合には不燃物ゴミとして廃棄してください。または、お住まいの自治体の指示に従ってください。本製品はコイン型リチウム電池を内蔵しています。
- 本製品を譲渡/廃棄する際は、「活用マニュアル」(CD-ROM)の「本製品の設定を初期化する」をご覧の上、設定内容を初期化してください。保存されている設定内容には、プロバイダへの接続に必要なIDやパスワードも含まれています。設定内容を初期化せずに譲渡/廃棄すると、これらの情報が悪意のある第三者によって悪用されるおそれがあります。
- 本製品は以下のOSで動作確認をおこなっております。
  – Mac OS X
  – Windows 2000
  – Windows XP
  – Windows Vista
  ただし、Windows Vistaに関しては以下の注意事項があります。
- Windows Vistaに関する注意事項(意図しない発信について)
  ダイヤルアップルータとしてお使いになる場合には、自動発信の機能をよくご理解の上ご使用ください。Windows Vistaの機能によって意図せず自動発信し、結果として予想外の電話料金やプロバイダの接続料金がかかる場合があります。例えば、Windows Vistaを起動したときに、DNS名前解決のパケットが発行されて発信することがあります。ときどき通信記録や累積料金を調べて、意図しない発信がないか、また累積料金が適当であるかどうかご確認ください。特にWindows Vistaを使い始めるときや、新しいソフトウェアをインストールしたときはご注意ください。
  Windows Vistaをご利用になる際は、当社ルータの一部機能のご利用に支障が出る場合がありますのでご注意ください。詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)の付録をご覧ください。

重要なお知らせ

セキュリティ対策と本製品のファイアウォール機能について

インターネットを利用すると、ホームページで世界中の情報を集めたり、電子メールでメッセージを交換したりすることができ、とても便利です。その一方で、お使いのパソコンが世界中から不正アクセスを受ける危険にさらされることになります。
特にインターネットに常時接続したり、サーバを公開したりする場合には、不正アクセスの危険性を理解して、セキュリティ対策を行う必要があります。本製品はそのためのファイアウォール機能を装備していますが、不正アクセスの手段や抜け道(セキュリティホール)は、日夜新たに発見されており、それを防ぐ完璧な手段はありません。
インターネット接続には、常に危険がともなうことをご理解いただくとともに、常に新しい情報を入手し、自己責任でセキュリティ対策を行うことを強くおすすめいたします。

プロバイダ契約について

本製品をルータとしてお使いになる前(または新たにプロバイダ契約を行う前)に、必ずルータ経由による複数パソコンの同時接続が、プロバイダによって禁止されていないかどうかご確認ください。**プロバイダによっては、禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。契約に違反して本製品を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。**
禁止されている場合は、プロバイダと別途必要な契約を行うか、同時接続を禁止していない他のプロバイダと契約してください。

通信料金について

本製品をダイヤルアップルータとしてお使いになる場合には、自動発信の機能をよくご理解の上ご使用ください。本製品をパソコンやLANに接続した場合、本製品はパソコンのソフトウェア(電子メールソフトウェアやWebブラウザなど)が送信するデータや、LAN上を流れるデータの宛先を監視します。LAN外の宛先があると、あらかじめ設定された内容に従って自動的に回線への発信を行います。
そのため、**設定間違いや回線切断忘れがあった場合、ソフトウェアや機器が定期送信パケットを発信していた場合には、予想外の電話料金やプロバイダの接続料金がかかる場合があります。**
ときどき通信記録や累積料金を調べて、意図しない発信がないか、また累積料金が適当であるかどうかご確認ください。また、本製品の設定やリビジョンアップなどの最新情報を得るために、定期的に当社のホームページをご覧になることを強くおすすめいたします。

以下の場合に、予想外の通信料金がかかっている場合があります

- 本製品を使い始めたとき
- 本製品のプロバイダ接続設定を変更したとき
- MP接続を設定したとき
- パソコンに新しいソフトウェアをインストールしたとき
- ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続したとき
- 本製品のファームウェアをリビジョンアップしたとき
- その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じたときなど

ご注意

- プロバイダ契約を解除／変更した場合は、必ず本製品の接続設定を削除または再設定してください。削除しないままお使いになると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。意図しない料金を請求される場合があります。
- プロバイダ側の状態(アクセスポイントの変更、メンテナンス、障害など)によって、予想外の通信料金がかかる場合があります。プロバイダからの告知情報には常にご注意ください。

本製品の料金情報や累積接続時間管理について

本製品をISDN回線に接続して使用する場合、料金情報に基づく累積料金額による発信制限や、累積接続時間による発信制限をかけることができます。これらの機能は、ISDN回線を通して通知される料金情報や本製品が計算する累積接続時間に基づいて行われるため、サービス割引などによる異なる料金算出方法や、プロバイダ独自の通信時間算出方法には対応できません。

従って、実際の運用においては、発信制限動作が意図した通りにならない場合があります。正確を期す場合は、一定期間試験運用をするなどしてずれがないかを確認してください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

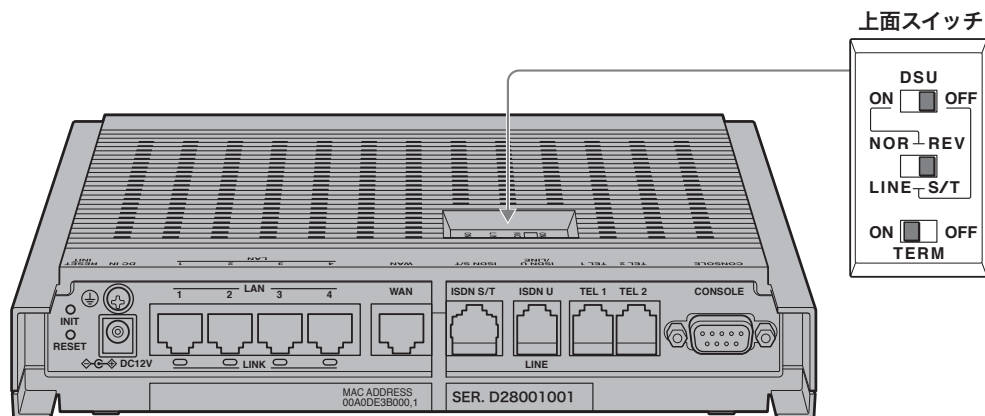
高調波について

JIS C 61000-3-2適合品

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性–第3-2部：限度値–高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

輸出について

本製品は「外国為替及び外国貿易法」で定められた規制対象貨物(および技術)に該当するため、輸出または国外への持ち出しには、同法および関連法令の定めるところに従い、日本国政府の許可を得る必要があります。

本製品上面のスイッチについてのご注意

スイッチを切り替えた場合は、本製品の再起動が必要です

DSUスイッチおよびNOR-REV（LINE-ST）スイッチを切り替えて、通信に使用する回線種別をISDN回線からアナログ回線（またはその逆）に変更した場合は、新たに選択された回線を有効にするために本製品を再起動する必要があります。

スイッチを切り替えた時点で、変更前に選んでいた回線も使用できなくなります

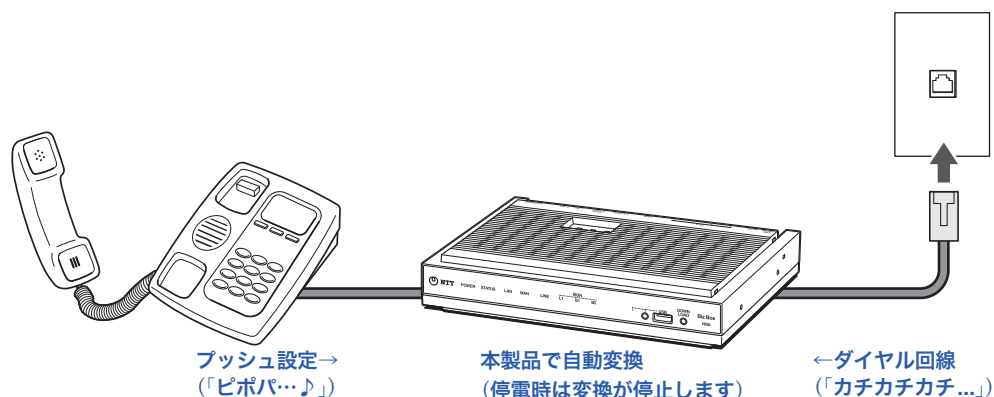
- 変更前に選んでいなかった側の回線も使用できないままとなるため、スイッチを切り替えた時点でそれまで接続できていたISDN回線／アナログ回線とも使用できなくなります。ただし、WANポート / LANポートを使用した通信には影響ありません。
- 変更前に選んでいた回線がデータ呼を含め通話中の場合、その通話はアナログ呼およびデータ呼に関わらず、切断されます。
- スイッチ操作によってISDN回線およびアナログ回線が使用できなくなった場合は、LINEおよびB1､B2ランプが同じタイミングで点滅します。

ISDN回線用の設定からアナログ回線用の設定に切り替えると

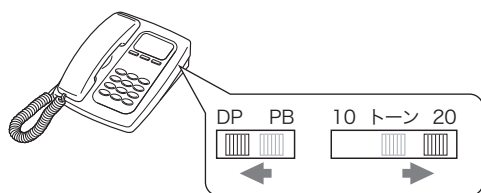
- L1ランプが消灯し、LINEおよびB1、B2ランプが点滅します。
- ISDN回線で通信中の呼（アナログ、データ共）は切断されます。

アナログ回線用の設定からISDN回線用の設定に切り替えると

- LINEおよびB1、B2ランプが点滅します。
- アナログ回線で通信中の呼は切断されます。

停電時の電話に関する重要なお知らせ

ダイヤル回線で契約のお客様へ

「ダイヤル回線」で電話回線を契約されている場合は、停電時に電話が使用できない場合ありますので、以下の注意をよくお読みください。

- 電話機を使った設定は、本製品と電話機間はトーン(プッシュ)で信号がやり取りされます。
- 停電などによって本製品の電源供給が停止すると、トーン(プッシュ)回線用に動作するように設定された電話機がダイヤル回線と直結されるため、お使いの電話機によっては110や119などの緊急電話も含めて外線通話できない場合があります。
- お使いの電話機にダイヤル/トーン切り替えスイッチがある場合は、停電時には「ダイヤル」に切り替えて通話してください。詳しくは、お使いの電話機の取扱説明書をご覧ください。

契約種別を確認するには

契約書(または毎月の請求書)でご確認ください。

電話機の設定を「ダイヤル」に切り替えると

㊟および#を入力できないため、停電時以外の通常の状態でも内線電話や電話機からの設定は利用できません。

本書の表記について

略称について

本書ではそれぞれの製品について、以下のように略称で記載しています。

- Biz Box ルータ「N58i」：本製品
- Microsoft® Windows®：Windows
- Microsoft® Windows 2000®：Windows 2000
- Microsoft® Windows XP®：Windows XP
- Microsoft® Windows Vista®：Windows Vista
- 10BASE-T（100BASE-TX）ケーブル：LANケーブル

設定例について

本書に記載されているIPアドレスやドメイン名、URLなどの設定例は、説明のためのものです。実際に設定するときは、必ずプロバイダから指定されたものをお使いください。

詳細な技術情報について

本製品を使いこなすためには、インターネットやネットワークに関する詳しい知識が必要となる場合があります。付属のマニュアルではこれらの情報について解説しておりませんので、詳しくは市販の解説書などを参考にしてください。

商標について

- イーサネットは富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
- Microsoft 、Windowsは米国Microsoft社の米国およびその他の国における登録商標です。
- MacOSは米国Apple社の登録商標および商標です。
- Adobe Readerは米国Adobe Systems社の登録商標です。
- 本製品は、RSA Security Inc.のRSA® BSAFE™ ソフトウェアを搭載しております。RC4およびBSAFEはRSA Security Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。

DOWNLOADボタンご使用時のソフトウェアライセンス契約について

本製品の設定を変更することにより、DOWNLOADボタンを操作して、本製品の内蔵ファームウェアをリビジョンアップすることができます。

DOWNLOADボタンを押してリビジョンアップを実行する、という操作は、ソフトウェアライセンス契約(以下「本契約書」)(次ページ参照)に同意したこととみなされます。ご使用になられる前に、必ず本契約書をお読みください。

本契約書の内容に同意していただけない場合には、DOWNLOADボタンの操作によるファームウェアのリビジョンアップを許可する設定に変更してはなりません。過失を含むいかなる場合であっても、当社は、本使用許諾契約に起因するお客様側の損害について一切の責任を負いません。

なお、DOWNLOADボタンを使用しないでリビジョンアップする方法も提供しております。そちらをご利用される方は「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。

DOWNLOADボタンの詳しい操作方法は、「活用マニュアル」(CD-ROM)にてご確認ください。本書はお使いになる方がなくさないように大切に保管してください。

ソフトウェアライセンス契約

1. 使用許諾

本使用許諾契約の定めにご同意いただくことによりダウンロード可能となるBiz Boxルータ「N58i」(以下、「本製品」という)用ファームウェア(以下、「本プログラム」という)は当社がお客様に使用許諾するものです。本使用許諾契約は、ダウンロードした本プログラム及び本使用許諾契約に基づいて作成された複製物に適用されます。

2. 再配布の禁止

本プログラムは、本製品の機能アップグレードを目的とした場合に限りダウンロードすることができます。不特定多数の者によるアクセスが可能なウェブ・サイトなどにアップロード、掲示することは当社の許可を得た場合を除きできないものとします。

3. 複製物の作成

バックアップ目的及び、複数の本製品のアップグレードに必要な場合を除き、本プログラムの複製物の作成はできないものとします。

4. 逆コンパイル、リバースエンジニアリング、逆アセンブルの禁止

お客様は、本プログラム又はその一部を、逆コンパイルし、リバースエンジニアリングし、逆アセンブルし、修正し、再使用許諾し、頒布し、二次的著作物を創作しないものとします。

5. 責任の制限

過失を含むいかなる場合であっても、当社は、本使用許諾契約に起因するお客様側の損害について一切の責任を負いません。

6. 外国為替法及び外国貿易法による規制

本プログラムは、「外国為替及び外国貿易法第25条第1項」に基づいて規制される技術(役務)に該当します。このため、本プログラム、及び本プログラムをインストールした本製品の日本国外への持ち出しには、日本政府による輸出許可が必要となる場合があります。また、本プログラムの、日本国内に住所を持たない人への提供にも、日本政府による許可が必要となる場合があります。

7. 日本に居住する人への限定提供

本プログラムは、日本国内に居住する法人または個人にのみ提供されるものとします。

8. 日本国法令の準拠

本使用許諾契約は、日本国の法令に準拠し、これに基づいて解釈されるものとします。

本製品でできること

本製品はブロードバンドルータやダイヤルアップルータ、TELポート、DSUの機能を内蔵したルータです。
ISDNのダイヤルアップ接続からCATV /ADSL接続、専用線接続まで、さまざまなインターネット接続方法に対応できます。より高速な回線で接続したい場合でも、本製品の設定変更のみで対応できます。

ブロードバンド&ISDN対応

FTTHやCATV、ADSLなどのブロードバンド回線用モデムに接続できるWANポートに加えて、従来のISDNダイヤルアップルータ機能も装備しています。「インターネットにはFTTH回線を接続し、電話はISDN回線を使用する」という環境でも、本製品1台で対応できます。

ファイアウォール機能

静的／動的の2種類のフィルタによるパケットフィルタリング機能で、外部からの不正アクセスに対してセキュリティを強化できます。不正アクセスや攻撃を検出した場合にお知らせする、不正アクセス検知機能も搭載しています。

PPTPによる仮想プライベートネットワーク

本製品はPPTP（Point to Point Tunneling Protocol）に対応しているため、インターネット（ブロードバンド）回線を利用した仮想プライベートネットワーク（VPN）を構築する場合でも、より安全にデータをやり取りできます。
LANとLANをPPTP方式で接続するだけでなく（PPTP-LAN間接続）、外出先からPPTP方式でLANにリモートアクセスすることもできます。

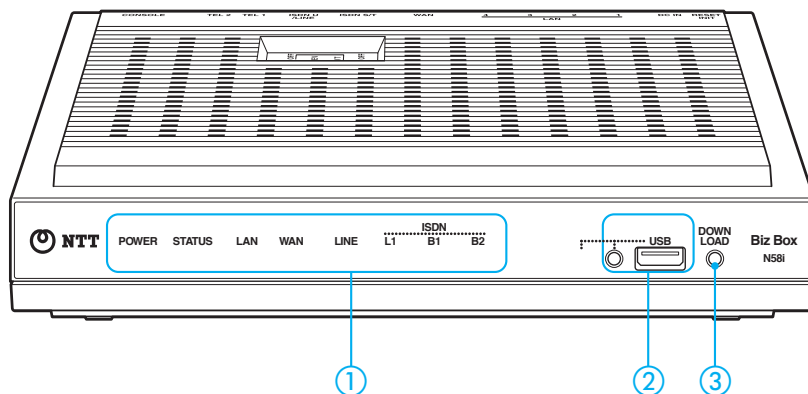
かんたん操作

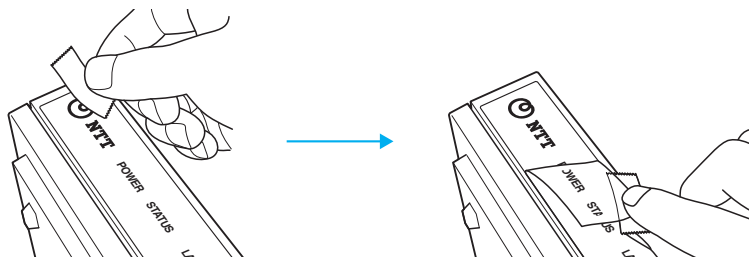
- 本製品は設定のためのホームページ「かんたん設定ページ」を内蔵していますので、パソコンのWebブラウザを使って本製品の基本的な設定を変更できます。
- ご購入後に新しい機能が追加されても、最新の機能を利用できます。ファームウェアは当社ホームページから最新版をダウンロードできます。
- STATUSランプの状態を確認するだけで、プロバイダとの接続やVPN接続、IPIPによるトンネル接続において、接続先の機器との通信が不可能な状態になっていないかを判別できます。

その他の便利な機能を装備

- 本製品の設定ファイルやログを、市販のUSBメモリに保存できます（「使用上のご注意」（6ページ）をよくお読みの上、USBメモリをお使いください）。
- ISDN回線で使用する場合は、今まで使っていた電話やFAX、モデムなどを本製品の2つのTELポートに接続して、2台同時に使用できます。サブアドレスやフレックスホン、ナンバー・ディスプレイ、i・ナンバー、ダイヤルインなど、各種のISDNサービスにも対応しています。

各部の名称とはたらき

前面

保護フィルムのはがしかた

お買い上げ時の本製品の前面には、輸送中のキズつきを防ぐための保護フィルムが貼られています。フィルムをはがすときは、セロハンテープなどをフィルムに密着させてから、テープごと引きはがしてください。

ご注意

表面をつめなどで引っかかないでください。

① ランプ

本製品の動作状態を示します。ランプの点灯状態と本製品の動作の関係については、「前面ランプの点灯状態」(次ページ)をご覧ください。

- **POWER：**本製品の電源の状態を示します。
- **STATUS：**接続先の機器との通信が不可能な状態になっているかどうかを示します。
- **LAN：**LANポートの使用状態を示します。
- **WAN：**WANポートの使用状態を示します。
- **LINE：**本製品に接続したアナログ回線の状態を示します。
- **L1：**ISDNの回線状態を示します。
- **B1：**ISDNのB1チャネルの使用状態を示します。
- **B2：**ISDNのB2チャネルの使用状態を示します。
- **USB：**USB機器の接続、使用状態を示します。

② USBボタンとポート

市販のUSBメモリを使用して、設定ファイルのコピーやログの保存、リビジョンアップを実行できます。詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。
USBメモリを取り外す際は、USBボタンを2秒間押し続けて接続を解除してから、USBメモリを取り外してください。

③ DOWNLOADボタン

USBメモリからのリビジョンアップ時にUSBボタンとこのDOWNLOADボタンを3秒間押し続けることで、USBメモリからファームウェアをリビジョンアップできます。
詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。

前面ランプの点灯状態

◉点灯　◉点滅　◎消灯

ランプ	状態	説明
POWERランプ		
	◉	電源が入っています。
	◎	電源が切れているか、または停電しています。
STATUSランプ		
	◉	通信が不可能な状態になっています。 詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。
	◎	通信が不可能な状態になっていません。
LANランプ		
	◉	LANが使用可能な状態です。
	◉ (点滅)	LANにデータが流れています。
	◎	LANが使用不可能な状態です。
WANランプ		
	◉	WANが使用可能な状態です。
	◉ (点滅)	WANにデータが流れています。
	◎	WANが使用不可能な状態です。
LINEランプ		
	◉	アナログ回線の電話で通話中です。
	◉ (点滅)	アナログ回線の電話が着信しています。
	◎	アナログ回線の電話を使用していません。
L1ランプ		
	◉	ISDN回線／専用線が正常な状態です。
	◎	ISDN回線／専用線が使用できない状態です。
B1ランプ		
	◉	B1チャネルを使用しています。
	◉ (点滅)	B1チャネルにデータが流れています。
	◎	B1チャネルが空いています。
B2ランプ		
	◉	B2チャネルを使用しています。
	◉ (点滅)	B2チャネルにデータが流れています。
	◎	B2チャネルが空いています。
USBランプ		
	◉	USBメモリがUSBポートに差さっていて、アクセスしていません。
	◉ (点滅)	USBメモリにアクセスしています。
	◎	USBメモリがUSBポートに差し込まれていません。または、ポートに差し込まれているUSBメモリを取り外すことができる状態です。

上面／底面

① 通風口

内部の熱を逃がすための穴です。

② 機器名

本製品の機器名が記載されています。

③ 認証番号

本製品の認証番号が記載されています。

④ TERM（ターミネータ）スイッチ

ISDN機器のターミネータ（終端抵抗）を設定します。

- **本製品のターミネータを使用する場合**：TERMスイッチをONに設定します。
- **U点を使用する場合**：ONに設定します。

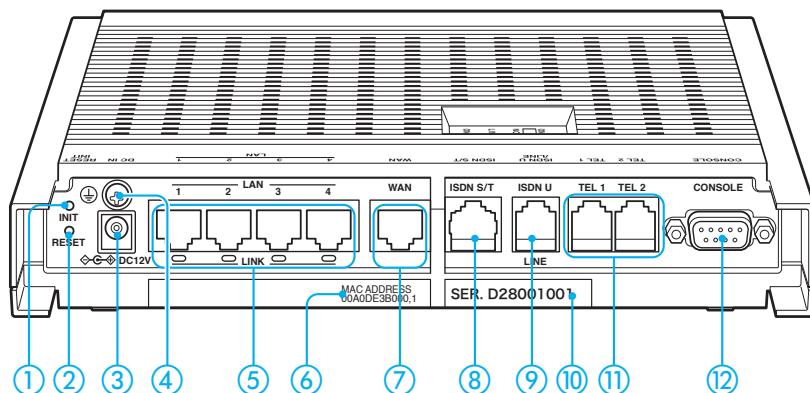
⑤ NOR-REV（極性反転）およびLINE-S/Tスイッチ

DSUスイッチがONの場合とOFFの場合で、機能が異なります。

- **内蔵のDSUを使用する場合（DSUスイッチがON）**：ISDN U/LINEポートの極性を切り替えます。
- **内蔵のDSUを使用しない場合（DSUスイッチがOFF）**：ISDN回線に接続する場合は「S/T」、アナログ回線に接続する場合は「LINE」に設定します。

⑥ DSUスイッチ

本製品内蔵のDSUを入/切します。内蔵のDSUを使うときは「ON」、使わないときは「OFF」にします。

背面

① INITスイッチ

このスイッチを押しながらRESETスイッチを押すと、本製品の設定を工場出荷状態に戻すことができます。詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。

② RESETスイッチ

本製品を再起動します。

③ 電源コネクタ(DC 12V)

付属のACアダプタを接続します。

④ アース端子

アースコードを接続します。必ず接続してください。

⑤ LANポート

パソコンのLANポートまたはHUBのポートとLANケーブルで接続します。
各LANポートの下部にはLINKランプがあり、リンク状態によって消灯(リンク喪失)または点灯(リンク確立)、点滅(データ転送中)します。

⑥ MACアドレス

LAN側とWAN側それぞれに付与されている機器固有のネットワーク識別番号が記載されています。「00A0DE3B0000, 1」という上図の例の場合、LAN側とWAN側それぞれのMACアドレスは以下のようになります。

- **LAN側MACアドレス：**00A0DE3B0000
- **WAN側MACアドレス：**00A0DE3B0001

⑦ WANポート

ケーブルモデムやADSLモデム、ONUとLANケーブルで接続します。

⑧ ISDN S/Tポート

内蔵のDSUを使用する場合と使用しない場合で、機能が異なります。

- **内蔵のDSUを使用する場合**：このポートと他のISDN機器をISDNケーブルで接続します。
- **内蔵のDSUを使用しない場合**：このポートとDSUをISDNケーブルで接続します。

⑨ ISDN U/LINEポート

ISDN回線に接続する場合とアナログ回線に接続する場合で、機能が異なります。

- **ISDN回線に接続する場合**：ISDN回線や専用線をモジュラーケーブルで接続します。
- **アナログ回線に接続する場合**：アナログ回線にモジュラーケーブルで接続します。

⑩ シリアル番号

製品を管理／区分するための製造番号です。

⑪ TELポート

電話機やFAXなどのアナログ機器とモジュラーケーブルで接続します。停電時の動作は、接続する回線によって異なります。

- **ISDN回線に接続する場合**：停電時は、TELポートに接続した電話機を使用して通話することはできません。
- **アナログ回線に接続する場合**：停電時は、TEL1ポートのみ使用できます。

⑫ CONSOLEポート

コンソールからの設定を行う場合に、パソコンのRS-232C端子(シリアルコネクタ)と接続します。詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。

ブロードバンド回線でインターネットへ常時接続する

（PPPoE方式 — フレッツ・ADSL、Bフレッツなど）

本書ではフレッツ・ADSL、Bフレッツなどのppp方式でブロードバンド回線でインターネットへ常時接続する方法について説明します。それ以外の方式や回線でインターネットに接続する場合は、活用マニュアル（CD-ROM）をご覧ください。

操作の流れ

準備1	接続して、電源を入れる	▶24ページ
準備2	「かんたん設定ページ」を開く	▶27ページ
準備3	インターネット接続に必要な情報を登録する	▶29ページ

ご注意

- DHCPサーバを使用しているネットワークに本製品を接続する場合は、本製品のDHCPサーバ機能を動作しないようにする必要があります。詳しくはネットワークの管理者にご相談ください。
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本製品の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける危険性が高くなります。セキュリティには十分ご注意の上、お使いください。詳しくは、「活用マニュアル」（CD-ROM）をご覧ください。
- 本書ではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

準備を始める前にご用意ください

アースコード

アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。

LANケーブル

パソコンの台数や距離に合わせて、10BASE-Tまたは100BASE-TX対応のLANケーブルをご用意ください。

HUB

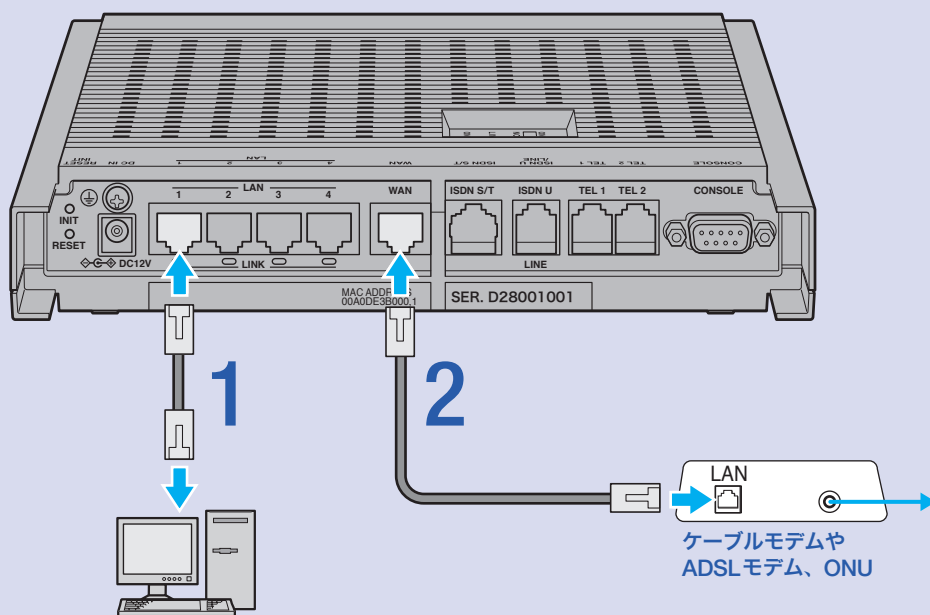
本製品のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。5台以上のパソコンを接続したい場合は、10BASE-Tまたは100BASE-TX対応のHUB（またはスイッチングHUBなど）をご用意ください。

プロバイダの設定資料

接続先を設定してインターネットに接続するには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です（接続方法によっては、必要のないものもあります）。

- ユーザID（認証ID、アカウント名）
- パスワード（認証パスワード、初期パスワード）
- IPアドレス
- ネットマスク
- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス、ネームサーバIPアドレス、DNSサーバIPアドレス）
- デフォルト・ゲートウェイ・アドレス

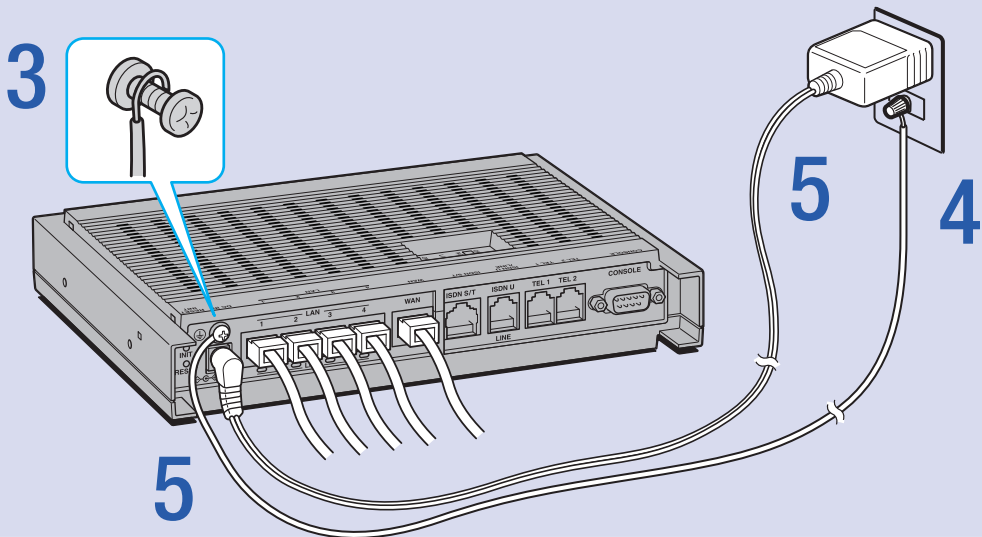
準備 1

接続して電源を入れる

1 **パソコンのLANポートと本製品のLANポートを、LANケーブルで接続する。**

2 **ケーブルモデムやADSLモデム、ONUのLANポートと本製品のWANポートを、LANケーブルで接続する。**

プロバイダの資料やADSLモデム、ONUの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

ケーブルモデムやADSLモデム、ONUとパソコンを直接接続している環境を本製品との接続に切り替えたり、設置されていたルータを本製品に置き換えた場合に、アドレスが取得できないなどの原因で正常接続できないことがあります。場合により、環境の変更後に何らかの設定やリセット操作、指定時間(例:20分以上)待つこと、などが必要となる場合があります。詳しくは、それらの取扱説明書の指示に従ってください。

3

アース端子のネジを＋ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定する。

アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。

4

アースコードをコンセントのアース端子へ接続する。

ご注意

アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには、絶対に接続しないでください。

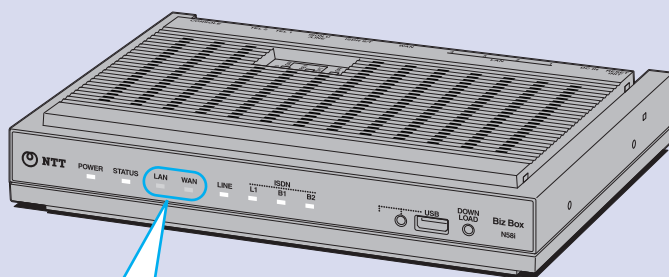
5

付属のACアダプタのコネクタを本製品の電源コネクタに接続してから、ACアダプタをコンセントに接続する。

ご注意

ACアダプタは、必ず本製品に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

ACアダプタを取りはずす場合は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

6 パソコンやHUBの電源を入れる。

本製品のLANランプとWANランプが点灯または点滅すれば正常です。

LANランプが点灯または点滅しない場合は

- LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。
- 本製品に接続したすべてのパソコンおよびHUBの電源が入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。

WANランプが点灯または点滅しない場合は

本製品とADSLモデム(またはケーブルモデムやONU)が正しく接続されているかどうか、ADSLモデム(またはケーブルモデムやONU)の電源が入っているかどうか確認してください。

準備 2

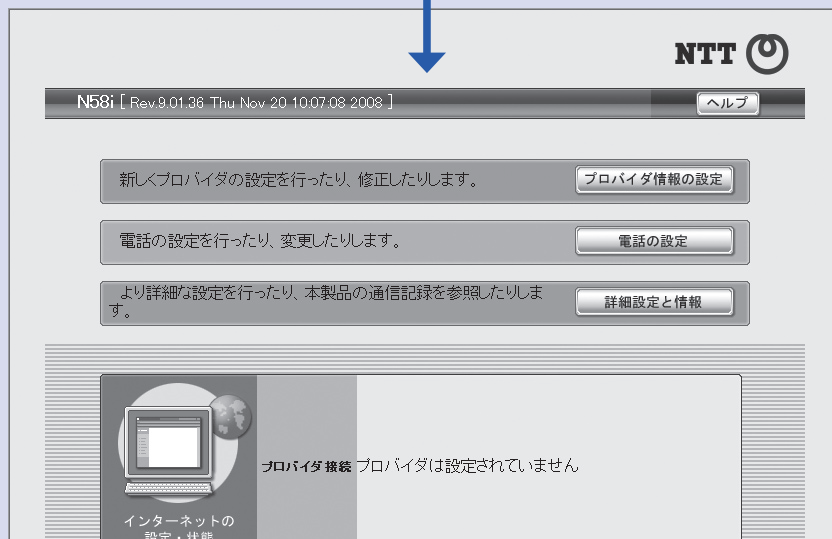
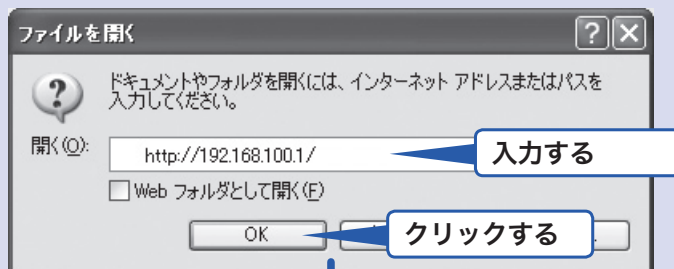
「かんたん設定ページ」を開く

本製品の設定の変更は、本製品に接続したパソコンのWebブラウザから本製品の「かんたん設定ページ」を開いて行います。
「かんたん設定ページ」を開くには、以下の手順で操作します。

ご注意

- 「かんたん設定ページ」を使用するには、Windows版Internet Explorer 6.0以降のWebブラウザ、または、MacOS X版Safari 2.0以降のWebブラウザが必要です。
- 本書ではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

ヒント

TELNETソフトウェアでコンソール画面からコマンドを入力して、「かんたん設定ページ」よりも詳細な設定を行うことができます(コンソールコマンド)。TELNETソフトウェアで本製品に接続する方法や本製品で使用できるコマンドについて詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。

1 本製品の電源が入っていることを確認する。

2 パソコンでWebブラウザを起動して、「ファイル」メニューから「開く」を選ぶ。

3 「http://192.168.100.1/」と半角英数字で入力してから、「OK」をクリックする。

「かんたん設定ページ」のトップページが表示されます。

「かんたん設定ページ」のトップページが表示されないときは

「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。

「かんたん設定ページ」の見かた

準備 3

インターネット接続に必要な情報を登録する

1　接続方法を確認する

1

「かんたん設定ページ」のトップページで、「プロバイダ情報の設定」をクリックする。

本製品のブロードバンド回線自動判別機能が動作して、接続した回線に合わせた接続方法が選ばれた画面が表示されます。

ご注意

- 本製品のWANポートにブロードバンド回線を接続していない場合は、自動判別機能は動作しません。
- 回線自動判別機能を一度実行すると、次回から自動判別は行いません。

2

「PPPoEを用いる端末型ADSL接続(フレッツ・ADSL、Bフレッツ)」が選ばれていることを確認する。

プロバイダの新規登録

- ○ CATVインターネット、またはPPPoEを用いない端末型ADSL接続
- ◉ PPPoEを用いる端末型ADSL接続(フレッツ・ADSL、Bフレッツ)
- ○ ISDN回線で必要に応じて接続/切断を行う端末型接続

「CATVインターネット、またはPPPoEを用いない端末型ADSL接続」が選ばれた場合は

「CATVインターネット、またはPPPoEを用いない端末型ADSL接続」が選ばれる代表的な接続サービスは、以下の通りです。

- プロバイダ独自のADSL接続サービス
- 各種CATVインターネット接続サービス

PPPoE方式の接続ができない回線です。
活用マニュアル(CD-ROM)をご覧の上、インターネットへの接続設定を行ってください。

何も選ばれなかった場合は

▶ブロードバンド回線の自動判別に失敗しました。

「PPPoEを用いる端末型ADSL接続(フレッツ・ADSL、Bフレッツ)」を選んでから、「次へ」をクリックしてください。

3

「次へ」をクリックする。

設定画面が表示されます。

2　プロバイダの情報を指定する

1 設定名を入力する。

接続先がわかるような名前を入力します。名前は自由に付けられますが、あとで設定を修正する必要が出たときなどにわかりやすい名前にしておくと便利です。

2 ユーザIDを入力する。

プロバイダから指定された、接続用のユーザIDを入力します。必ず書類を確認して、間違いのないように入力してください。

ご注意

フレッツ・ADSLやBフレッツで接続する場合は、ユーザIDの後にプロバイダ名を入力する必要があります。詳しくはフレッツ・ADSLまたはBフレッツの契約の際に当社から送付された資料や、プロバイダからの資料をご覧ください。
ユーザIDがusernameの場合の例：
username@provider.ne.jp
username@aaa.provider.ne.jp（サブドメインが付加される場合）

3 接続パスワードを入力する。

プロバイダから指定されたパスワード（または自分で変更したパスワード）を入力します。半角英数字で、大文字小文字も正確に入力してください。
入力したパスワードの文字は●で表示されます。

4 「次へ」をクリックする。

「プロバイダの設定3/4」画面が表示されます。

3 DNSサーバアドレスを指定する

1

DNSサーバアドレスを指定する。

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合
「DNSサーバアドレスを指定しない、またはプロバイダから自動取得」をクリックして選びます。

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合
「プロバイダとの契約書にDNSサーバアドレスの指定がある」をクリックして選んでから、以下の設定を行います。

- **プライマリDNSサーバアドレス**：プロバイダから指定されているDNSサーバアドレスを半角数字で入力します。
- **セカンダリDNSサーバアドレス**：プロバイダから指定されているDNSサーバアドレスが2つある場合に入力します(1つだけ指定されている場合は、この欄は空欄にしてください)。

2

「次へ」をクリックする。

「プロバイダの設定4/4」画面が表示されます。

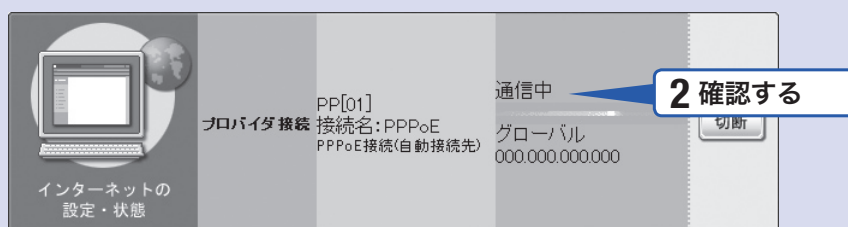
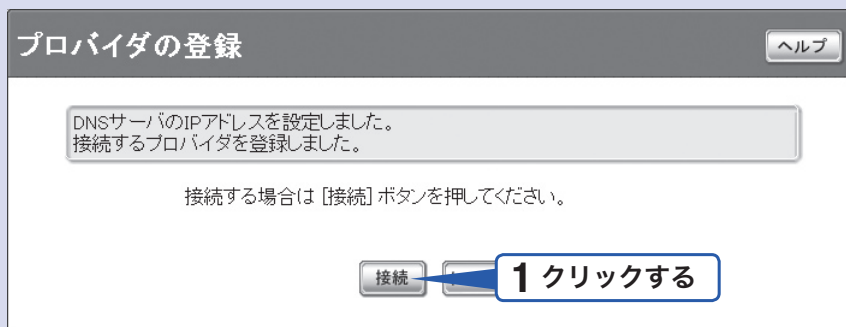
4　設定内容を確認する

1　**表示された設定内容が、プロバイダから送付された設定資料と合っているかどうか確認する。**

誤って設定した内容がある場合は、「戻る」をクリックして必要な設定画面を表示して、正しく設定し直してください。

2　**「設定の確定」をクリックする。**

「プロバイダの登録」画面が表示されます。

5　インターネットに接続する

1　**「接続」をクリックする。**

インターネットに接続して、「プロバイダへの接続・切断」画面が表示されます。
「トップへ戻る」をクリックすると、「かんたん設定ページ」のトップページに戻ります。

2　**インターネットに接続しているかどうか確認する。**

画面下部の表示を見て、本製品がインターネットに接続していることを確認してください。

設定終了

これでインターネットへ接続できるようになりました

▶インターネットに接続できない場合は

Check 1　本製品とパソコン、ADSLモデムやONUの接続を確認してください。

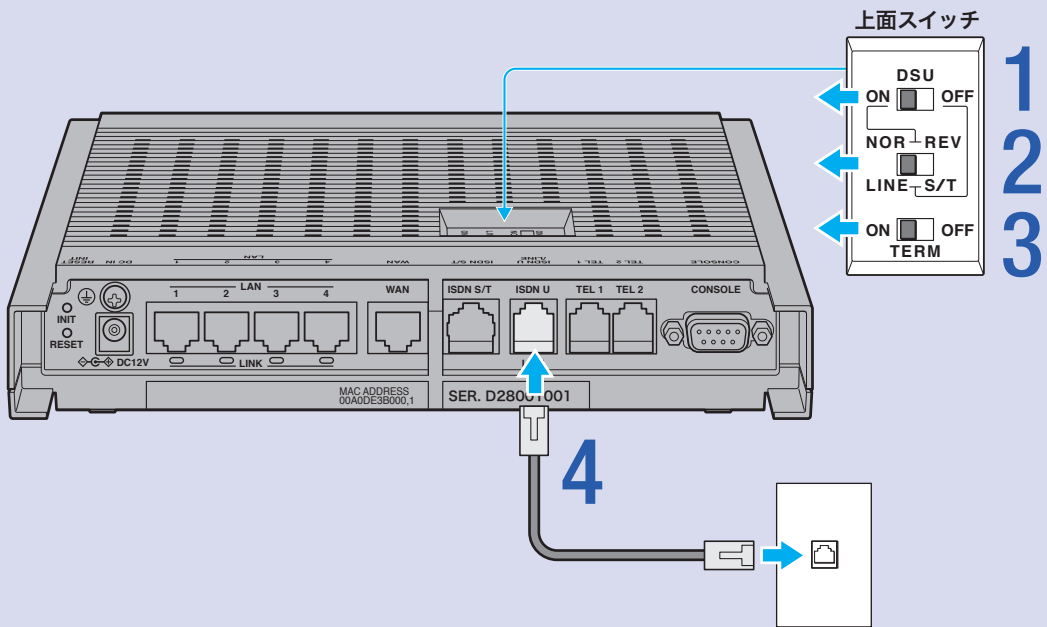
Check 2　31～32ページの設定内容をもう一度確認してください。

Check 3　それでも問題が解決しない場合は、活用マニュアル(CD-ROM)の「困ったときは」を参考にして、問題を解決してくだ

ISDN回線で通話する

1.ISDN回線を接続する

本製品のDSUを使って接続する場合

通常はこの方法で接続します。

1 本製品上面のDSUスイッチを「ON」に合わせる。

2 本製品上面のNOR-REVスイッチを「NOR」に合わせる。

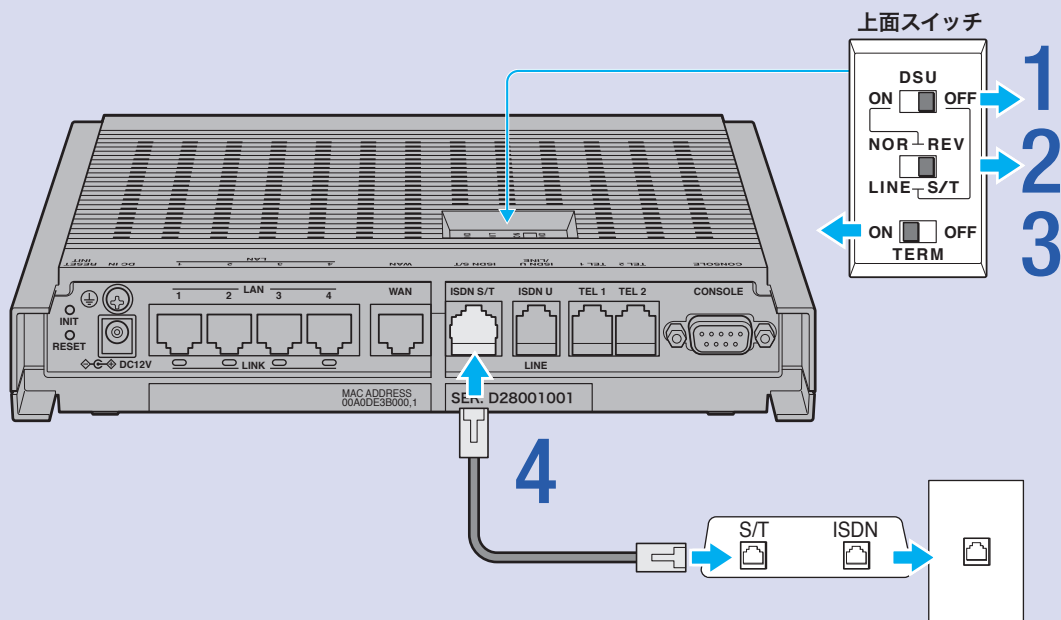
3 本製品上面のTERMスイッチを「ON」に合わせる。

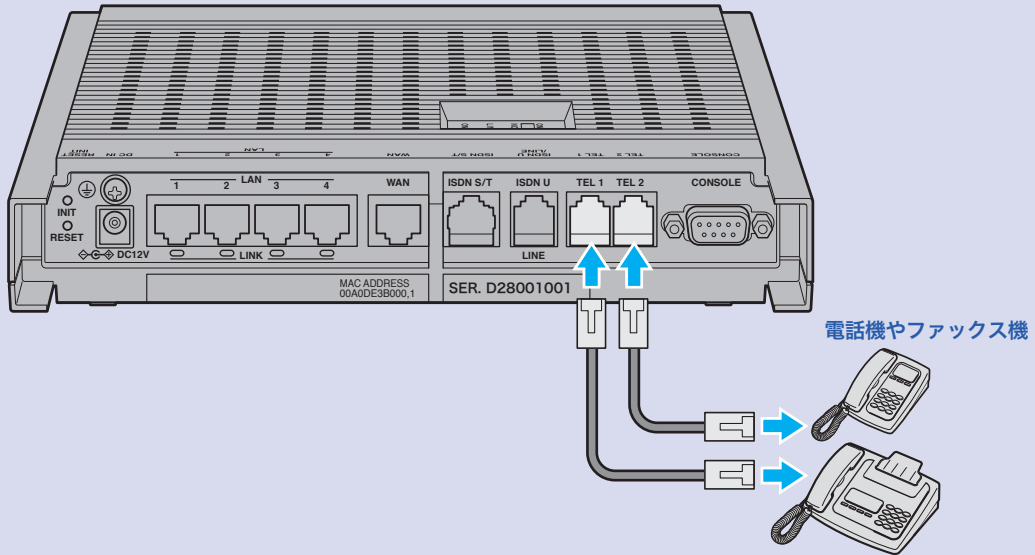
4 回線のモジュラージャックと本製品のISDN U/LINEポートを、モジュラーケーブルで接続する。

ご注意

このスイッチ設定の場合、アナログ回線を接続しないでください。

他のISDN機器のDSUを使って接続する場合

他のISDN機器を本製品と同時に使用したり、外部のDSUを使用する場合のみ、以下の手順に従って接続します。

1	**本製品上面のDSUスイッチを「OFF」に合わせる。**
2	**本製品上面のNOR-REVスイッチを「S/T」に合わせる。**
3	**本製品のみの接続の場合は、本製品上面のTERMスイッチを「ON」に合わせる。** 複数のISDN機器を接続する場合は、最遠端の機器のみ終端抵抗を「ON」にします。
4	**DSU（または他のISDN機器のS/Tポート）と本製品のISDN S/Tポートを、ISDNケーブルで接続する。**

2.電話機を接続する

電話機を本製品のTELポートに接続する。

電話機を本製品に接続すると、ISDN回線を利用した通話機能を利用できます。詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。

ご注意

- 本製品に接続した電話機は、停電時には通話できません。停電時に110や119などの緊急通話が必要な場合は、別回線の電話機や携帯電話などをお使いください。
- 各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続できます。分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は、正しく動作しません。
- TELポートにアナログ回線を接続しないでください。

3.電源を入れる

1

アース端子のネジを＋ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定する。

アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。

2

アースコードをコンセントのアース端子へ接続する。

ご注意

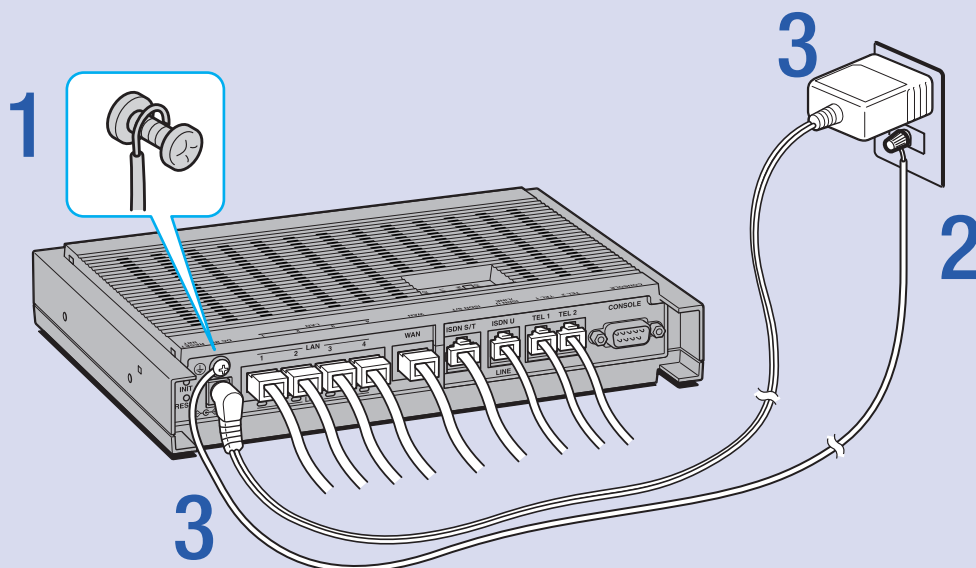
アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには、絶対に接続しないでください。

3

付属のACアダプタのコネクタを本製品の電源コネクタに接続してから、ACアダプタをコンセントに接続する。

ご注意

ACアダプタは、必ず本製品に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

ACアダプタを取りはずす場合は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

4 本製品のL1ランプが点灯または点滅することを確認する。

本製品のL1ランプが点灯または点滅すれば正常です。

L1ランプが点灯しない場合は

- 本製品とISDN回線が正しく接続されているかどうか、本製品のスイッチが正しく設定されているかどうか確認してください。
- 本製品のDSUを使って接続している場合には、上面のNOR-REVスイッチを「REV」に変えてみてください。

4. 接続した電話機にあわせて、設定を変更する

電話機やFAXなどを接続していないTELポートが「着信可能」に設定されていると、かかってきた電話がそのTELポートに着信してしまい、回線が話し中にならない場合があります。何も接続していないTELポートがある場合は、本製品に接続した電話機を使って、そのTELポートを「使用しない」に設定してください。

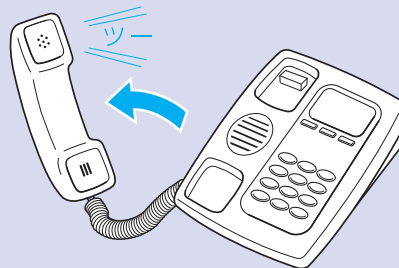
ヒント

すべてのTELポートにアナログ機器を接続している場合は、この設定は不要です。

ご注意

電話機のダイヤル設定は、必ず「トーン」(プッシュ)にして操作してください。トーンの機能がない電話機では、設定できません。

1

電話機の受話器を上げて、「ツー」という発信音を確認する。

2

電話機やFAXを接続していないTELポートの設定番号をダイヤルする。

- **TEL1ポートに電話機やFAXを接続していない場合：＊# 1 4 1 0 #**
- **TEL2ポートに電話機やFAXを接続していない場合：＊# 1 4 2 0 #**

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえたときは

設定内容が間違っていたり、設定が正常に行われていません。いったん受話器を置いて、もう1度ダイヤルし直してください。

3

受話器を置く。

ヒント

- TELポートを「発信・着信可能にする」に設定する場合は、以下の通りにダイヤルします。
  - TEL1ポートを「発信・着信可能にする」に変更：＊# 1 4 1 3 #
  - TEL2ポートを「発信・着信可能にする」に変更：＊# 1 4 2 3 #
- その他の設定操作について詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。

通話する

電話をかける

電話機で外線をかけるときは、通常の電話と同じ操作でかけられます。また、2回線まで同時に通信できるので、FAXを使いながら電話をかけたり、インターネットを使いながら電話をかけることもできます。

ご注意

電話機のダイヤル設定は、できる限り「トーン」(プッシュ)でお使いください。「パルス」の場合は、㊀および㊁の入力ができないため、次のような制限があります。

- 内線をかけることができません。
- 外線をかけるときにサブアドレスを指定できません。
- 電話機からの設定ができません。

1 受話器を上げる。

発信音が聞こえます。

2 相手の電話番号をダイヤルする。

呼び出し音が聞こえ、相手が応答すると通話できます。

相手がISDN回線でサブアドレスを設定している場合は、

電話番号に続けて＊とサブアドレス番号を押します。

サブアドレス2番にかける場合の例：

0313337777、＊、2

と押す。

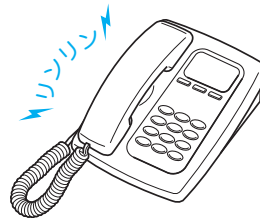
ヒント

- ダイヤルを押した後に#を押すと、すぐに発信します。また、何も押さなくてもダイヤル桁の間隔設定で設定された時間(工場出荷状態では4秒)を過ぎると、自動的に発信します。
- 一度通話状態になった相手に電話する場合、即時発信を使用する設定がされていれば、過去20件までの相手先は#なしでもすぐに発信します。

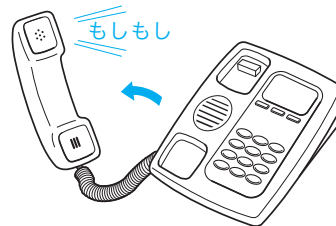
3 通話が終わったら、受話器を置く。

電話を受ける

電話がかかってくると、本製品のTELポートに接続したアナログ機器から呼び出し音が鳴ります。また、通話中に着信があった場合は、他の機器の呼び出し音が鳴り、同時に2通話まで使うことができます。

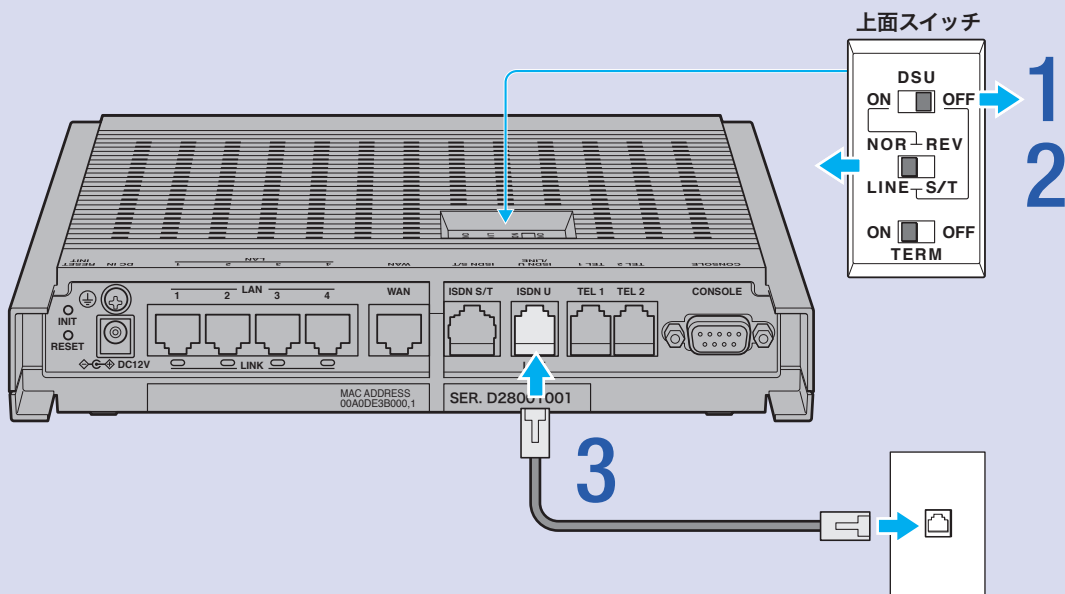
1 電話がかかってくると、呼び出し音が鳴ります。

ヒント

i・ナンバーやダイヤルインサービス、サブアドレスを設定した場合は、設定したポートのアナログ機器のみ呼び出し音を鳴らすことができます。詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。

2 受話器を上げて、通話する。

3 通話が終わったら、受話器を置く。

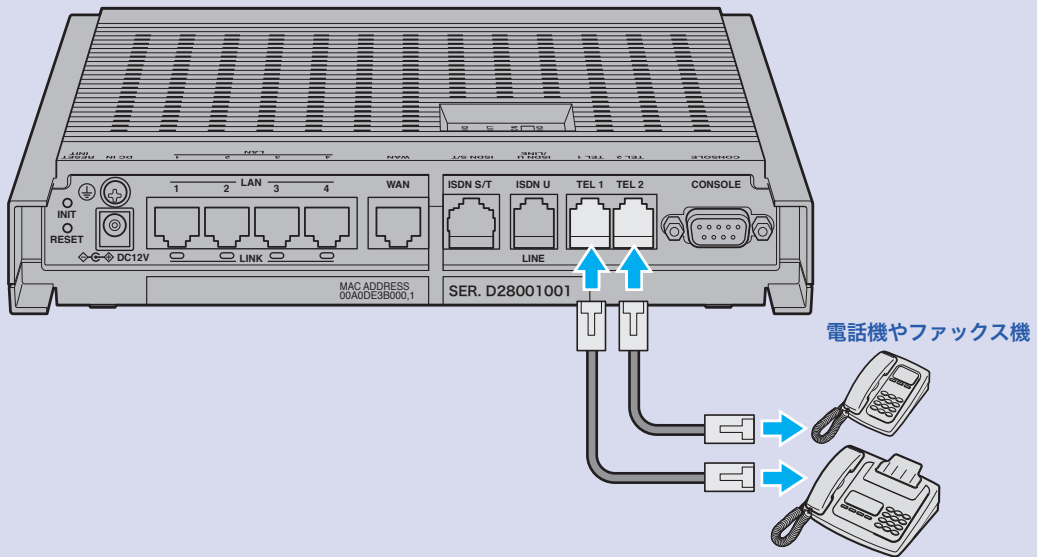
アナログ回線で通話する

1.アナログ回線を接続する

インターネットへ光ファイバ回線やCATV回線で接続して、独立したアナログ回線に電話機を接続している場合は、この方法で接続します。

1 本製品上面のDSUスイッチを「OFF」に合わせる。

2 本製品上面のLINE-S/Tスイッチを「LINE」に合わせる。

3 回線のモジュラージャックと本製品のISDN U/LINEポートを、モジュラーケーブルで接続する。

2.電話機を接続する

電話機を本製品のTELポートに接続する。

電話機を本製品に接続すると、アナログ回線を利用した通話機能を利用できます。
詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。

ご注意

- TEL1ポートに接続した電話機は、停電時にも通話することができます。ダイヤル回線を使用している場合に電話機が「プッシュ」の設定になっていると、停電時にダイヤルできなくなります。この場合は、電話機を「ダイヤル」の設定に切り換えてください。
- 各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続できます。分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は、正しく動作しません。
- TELポートにアナログ回線を接続しないでください。

3.電源を入れる

1

アース端子のネジを＋ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定する。

アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。

2

アースコードをコンセントのアース端子へ接続する。

ご注意

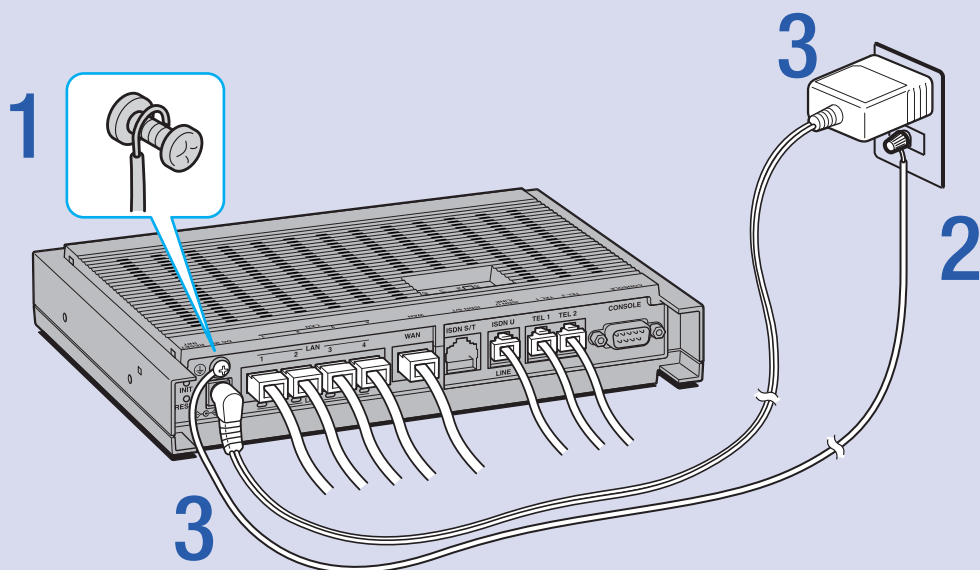
アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには、絶対に接続しないでください。

3

付属のACアダプタのコネクタを本製品の電源コネクタに接続してから、ACアダプタをコンセントに接続する。

ご注意

ACアダプタは、必ず本製品に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

ACアダプタを取りはずす場合は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

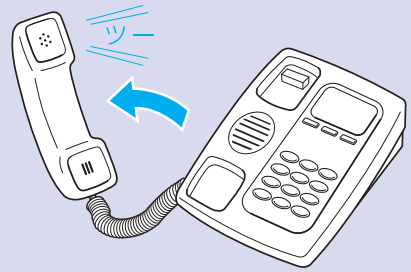
4. 接続した電話機にあわせて、設定を変更する

「1.アナログ回線を接続する」(42ページ)で本製品に接続した電話回線の種類に合わせて、TELポートに接続したプッシュボタン式電話機で本製品の設定を変更します。

ご注意

電話機のダイヤル設定は、必ず「トーン」(プッシュ)にして操作してください。トーンの機能がない電話機では、設定できません。

1

TEL1ポートに接続した電話機の受話器を上げて、「ツー」という発信音を確認する。

2

電話機のボタンを押して、お使いのアナログ回線の種類を指定する。

- **プッシュ回線の場合：** ＊# 2 0 1 3 #
- **ダイヤル回線(10pps)の場合：** ＊# 2 0 1 1 #
- **ダイヤル回線(20pps)の場合：** ＊# 2 0 1 2 #

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえたときは

設定内容が間違っていたり、設定が正常に行われていません。いったん受話器を置いて、もう1度ダイヤルし直してください。

回線の種類がわからない場合は

当社との電話回線契約書類をご覧ください。

それでもわからない場合は、当社までお問い合わせください(116)

3

受話器を置く。

その他の設定操作について詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。

アナログ回線をお使いの場合のご注意

電話機を使った設定など、本製品と電話機間はトーン(プッシュ)で信号がやり取りされます。そのため、停電などによって本製品の電源供給が停止すると、トーン(プッシュ)回線用に動作するように設定された電話機がダイヤル回線と直結されることになります。この状態では、お使いの電話機によっては110や119などの緊急電話も含めて、外線通話できない場合があります。
お使いの電話機にダイヤル/トーン切り換えスイッチがある場合は、「ダイヤル」に切り換えて通話してください。

ヒント

- 電話機をダイヤル回線用に設定しておき、常に「トーン」ボタン(通常は㊍ボタン)を押してから相手の電話番号をダイヤルすることで、停電時の問題を回避できる場合があります。
- 「トーン」ボタンはお使いの電話機によって異なります。詳しくは、お使いの電話機の取扱説明書をご覧ください。

通話する

電話をかける

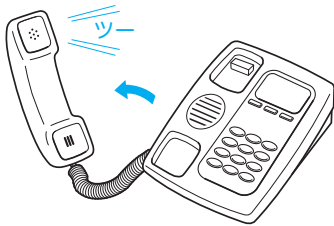
電話機で外線をかけるときは、通常の電話と同じ操作でかけられます。

ご注意

電話機のダイヤル設定は、できる限り「トーン」(プッシュ)でお使いください。「パルス」の場合は、㊟および㊓の入力ができないため、次のような制限があります。

- 内線をかけることができません。
- 電話機からの設定ができません。

1 受話器を上げる。

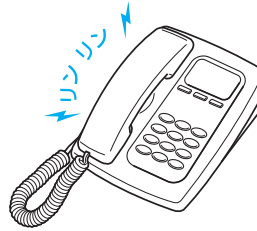
発信音が聞こえます。

2 相手の電話番号をダイヤルする。

呼び出し音が聞こえ、相手が出ると通話できます。

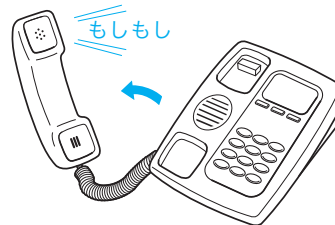
3 通話が終わったら、受話器を置く。

電話を受ける

電話がかかってくると、本製品のTELポートに接続したアナログ機器から呼び出し音が鳴ります。

1 電話がかかってくると、呼び出し音が鳴ります。

ヒント

ダイヤルインサービスを設定した場合は、設定したTELポートに接続したアナログ機器だけ呼び出し音を鳴らすこともできます。詳しくは、「活用マニュアル」(CD-ROM)をご覧ください。

2 受話器を上げて、通話する。

3 通話が終わったら、受話器を置く。

保守サービスのご案内

保証について

保証期間(1 年間)中の故障につきましては、「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたしますので、「保証書」は大切に保管してください(詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください)。

保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしています。

保守サービスの種類は

定額保守サービス
毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。

実費保守サービス

- 修理に要した費用をいただきます(修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます)。(故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください)
- 当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要となります。

故障の場合は

故障した場合のお問い合わせは、局番なしの113番へご連絡ください。

補修用部品の保有期間について

本商品の補修用性能部品(商品の性能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後、7 年間保有しています。

廃棄方法に関して

本商品を廃棄する時は、地方自治体の条例に従って処理してください。

その他

定額保守サービスの料金については、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

NTT東日本エリア(北海道、東北、関東、甲信越地区)でご利用のお客様

- お問い合わせ先：フリーアクセス 0120-970413
  ※携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は 03-5667-7100（通話料金がかかります）
- 受付時間 9:00〜21:00
  ※年末年始12月29日〜1月3日は休業とさせていただきます。

NTT西日本エリア(東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区)でご利用のお客様

- お問い合わせ先：フリーダイヤル 0120-248995
- 受付時間 9:00〜21:00
  ※年末年始12月29日〜1月3日は休業とさせていただきます。

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

サポート窓口のご案内

お問い合わせの前に

本書をもう一度ご確認ください

本書をよくお読みになり、問題が解決できるかどうかご確認ください。

ログ情報や設定情報をご確認ください

お客様のルータの状態を把握するために、当社の担当者がログ(Syslog)情報や設定(config)情報を確認させていただくことがあります。ログ情報や設定情報を問題の症状とあわせてお知らせいただくことで、問題の解決が早まることがあります。
ログ情報や設定情報は、以下の方法でご確認ください。

1. **パソコンでWebブラウザを起動して、ファイルメニューの「開く」を選ぶ。**
「ファイルを開く」画面が表示されます。

2. **「http：//192.168.100.1/」と半角英数字で入力してから、「OK」をクリックする。**
「かんたん設定ページ」のトップページが表示されます。

3. **「詳細設定と情報」をクリックする。**
詳細設定と情報」画面が表示されます。

4. **ログ情報を確認したいときは「本製品のログ(Syslog)のレポート作成」、設定情報を確認したいときは「本製品の全設定(config)のレポート作成」の「実行」をクリックする。**
本製品のログ表示または全設定情報が表示されます。
「活用マニュアル」(CD-ROM)の「本製品の設定情報とログを確認する」もあわせてご覧ください。

お問い合わせ窓口

本製品に関する技術的なご質問やお問い合わせは、下記へご連絡ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

NTT東日本エリア(北海道、東北、関東、甲信越地区)でご利用のお客様

- お問い合わせ先：フリーアクセス **0120-970413**
  ※携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は 03-5667-7100（通話料金がかかります）
- 受付時間 9:00～21:00
  ※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

NTT西日本エリア(東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区)でご利用のお客様

本商品の取り扱いおよび故障に関するお問い合わせ

- お問い合わせ先：フリーダイヤル **0120-248995**
  (携帯電話・PHSからもご利用可能です)
- 受付時間
  - 本商品のお取扱いに関するお問い合わせ：9:00～21:00
    (年末年始 12月29日~1月3日を除く)
  - 故障に関するお問合わせ:24時間(年中無休)※
    ※故障修理対応時間は9:00～17:00です。

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報などを提供しています。
本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ
http://web116.jp/ced/
http://www.ntt-west.co.jp/kiki/

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ

● NTT**東日本エリア(北海道、東北、関東、甲信越地区)でご利用のお客様**
お問い合わせ先: フリーアクセス **0120-970413**
※携帯電話・PHS・050IP電話からのご利用は
03-5667-7100(通話料金がかかります)
受付時間 9:00～21:00
※年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

● NTT**西日本エリア(東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区)でご利用のお客様**
本商品の取り扱いおよび故障に関するお問い合わせ
お問い合わせ先: フリーダイヤル **0120-248995**
(携帯電話・PHSからもご利用可能です)
受付時間
- 本商品のお取扱いに関するお問い合わせ:
  9:00～21:00(年末年始12月29日～1月3日を除く)
- 故障に関するお問合わせ:24時間(年中無休)※
  ※故障修理対応時間は9:00～17:00です。

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

環境を考えて大豆油インクを使用しています。
この取扱説明書は無塩素紙(ECF:無塩素紙漂白パルプ)を使用しています。

WR51730

本3034-1(2009.1)